

天ヶ瀬ダム再開発事業についての環境に関するこれまでの経過と主な意見

1. 河川管理者の見解

「淀川水系河川整備計画基礎案」(平成16年5月8日)

(環境に関する調査検討項目)

- 3)放流方法の変更に伴う環境への影響についての調査・検討を行う。
- 4)貯水池運用の変更に伴う環境等の諸調査を行う。
- 6)土砂移動の連続性の確保する方策の検討を行う。

「淀川水系5ダムの調査検討について(中間とりまとめ)」(平成16年12月5日)

(3)環境への影響

放流方法の変更や貯水池運用の変更に伴う貯水池周辺やダム下流に及ぼす主な影響としては、放流能力の増大による低周波音の拡大が考えられます。これについては、現況を把握し、天ヶ瀬ダムの放流能力増大方策の結果をもとに低周波音発生状況の予測、低周波音低減の方策の検討を行います。

その他の環境への影響としては、下流河川の流況の変化、貯水池水位の変動幅の増加があります。これらについては、現況の河川及び貯水池の自然環境や社会的環境・利用状況の現状を把握したところです。その結果、重大な影響が発生するような変化があるとは判断していませんが、引き続き調査を実施してまいります。

土砂移動の連続性を確保する方策として、天ヶ瀬ダム再開発事業で有効活用の検討対象となっている既存施設に排砂機能を併せて持たせることは、実施や管理に課題が多いことから、天ヶ瀬ダム再開発により確保することはせず、単独の排砂施設として引き続き検討を行います。

「淀川水系5ダムについての方針」(平成17年7月1日)

天ヶ瀬ダム再開発による環境への影響としては、放流能力の増大による低周波音の拡大、下流河川の流況の変化、貯水池水位の変動幅の増加等が考えられます。これらについては、専門家の意見を伺いながら調査検討を実施してきました。天ヶ瀬ダム再開発に伴う環境への影響及びその具体的な軽減策等については、より詳細な調査検討を継続して実施していきます。

2. 淀川水系流域委員会の見解

『「淀川水系5ダムについての方針」に対する見解』(平成17年8月5日)

放流能力の増大に伴う騒音・振動問題への対応のほか、生態系の保全についても最大限の配慮が必要です。

「委員からの主な意見」

下流河川の流況変化による自然環境への影響

流量増大に伴うナカセコカワニナへの影響

貯水池水位の変動幅の増大によるダム湖内の自然環境への影響